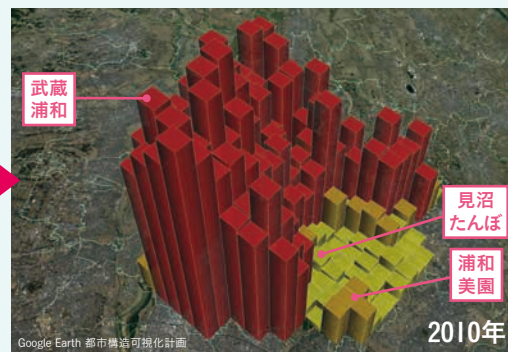
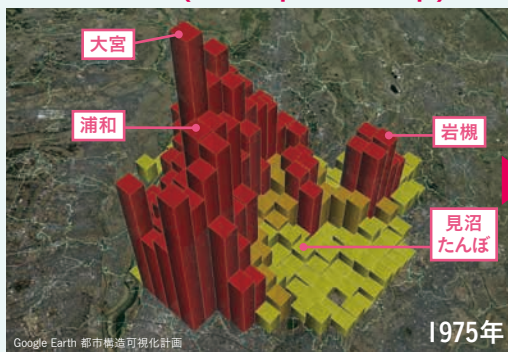
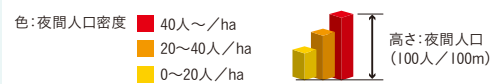




「都市構造可視化計画ウェブサイト」を使ってみた

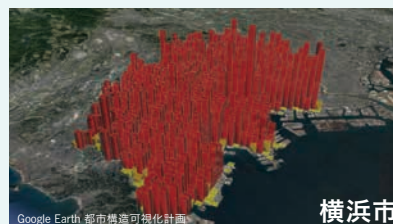
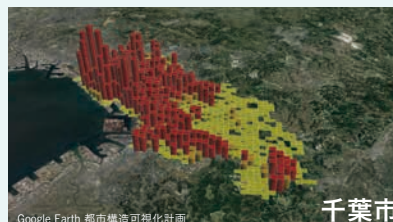
都市構造可視化計画ウェブサイトは、インターネットを使って誰でも見ることができます。都市構造や都市計画について、改めて考えるきっかけになったり、ビジネスのヒントを得られるかもしれません。

さいたま市の 夜間人口の経年変化 (1975年→2010年)



- 1975年から2010年にかけて、南北の鉄道沿線を中心に人口が増加しています。また浦和美園駅周辺などでも人口の増加が見られます。
- 要因として、鉄道が開通・延伸したことにより利便性が向上したこと、沿線で住宅地の整備が進んだことなどが考えられます。
- 一方、見沼たんぼ周辺は大きな変化は見られず、緑地空間が保全されていることが分かります。

さいたま市、千葉市、横浜市の 夜間人口の比較 (2010年)



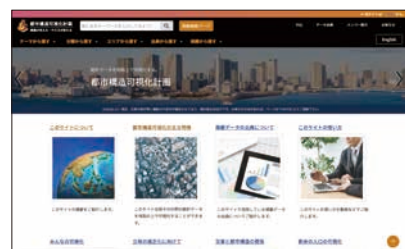
- 千葉市は東京都に近いエリアに人口が集積しています。南側で人口が集積しているところは大規模な住宅地整備が行われたエリアでした。
- 横浜市は両市と比べて人口が多く、鉄道や道路が充実しているため、市内全域に人口が集積していることが分かります。
- このように、地域によっても人口の集積の仕方には違いがあることが分かります。

※上段(1975年、2010年)と下段(2010年)のグラフは、メッシュ(地図を分割する正方形)の大きさが異なります

都市構造可視化計画ウェブサイトについて

「都市構造可視化計画ウェブサイト」は、パソコンにウェブブラウザのGoogle Chromeがインストールされていれば、無料で誰でも見ることができます。テーマやエリア、出典などから、見たいデータを絞ることができ、複数の都市の比較も可能です。

★都市構造可視化計画ウェブサイト <https://mieruka.city/>
都市構造可視化計画ウェブサイトの使い方については、トップページの「このサイトの使い方」から確認できます。
(<https://mieruka.city/movies/structure>)



データを地図上で見える化 新たな時代のまちづくり

まちづくり
INDEX

内閣府は、VR技術や地球地図、各都市のビッグデータなどを活用し、空間的、数値的な理解が直感的に得られる情報基盤「i-都市再生」を構築しています。このシステムを構築した目的や活用方法について、システム構築に携わった内閣府の赤星健太郎都市可視化調整官に伺いました。



内閣府 地方創生推進室
赤星 健太郎 都市可視化調整官

都市構造を3D地図で 見える化したシステム

内閣府では、ビッグデータなどを活用した、見える化情報基盤「i-都市再生」を含む「都市構造可視化計画ウェブサイト」の活用を促進しています。

このウェブサイトでは、昼夜別の人口、耕作放棄地の分布、地価、小売業の販売額など、様々なビッグデータを地図上で見える化し、数十年前から現在までの経過を見ることもできます。人口などは、約20年後まで予測したデータも見られるようになっています。

例えば、このシステムを活用して将来的に人口が増えるエリアを調べて小売店の新店舗を検討したり、人口

推計や人口密度を調べて病院や高齢者施設の検討にも役立てることが可能です。

これまでの都市計画は、知識とデータを持っている専門家によって作られるものでした。そのため、都市計画を考えるのは行政だけの仕事と思われがちでした。このシステムにより、誰でも自分暮らす地域の都市構造を知ることが出来るため、行政以外の方でも都市構造を理解することが出来ます。また、テーブルに付く全員が同じ情報を見て議論ができるので、市民参加のしやすさや、関係者の合意形成が早くなるのもメリットです。

また、市民の生活への直接的なメリットとしては、まちづくりに関する市の取組がスピーディーになることが挙げられるでしょう。このデータは様々な組合せが可能ですので、地域の強みと弱みを手取るようにわかるため、今まで以上に地域の特長に応じたまちづくりが可能になります。

都市計画・まちづくりへの活用例

●人口の経年変化、将来予測

↓
今後の都市施設の立地や居住誘導などの計画の検討

●人口×公共交通利用圏

↓
公共交通のカバー状況の把握、高齢化に対応したまちづくりの検討

●人口×小売販売額の経年変化

↓
中心市街地の繁栄や衰退の状況把握、活性化の検討

●人口×災害リスク

↓
安全エリアへの居住誘導策や災害発生時の避難対策などの防災まちづくりの検討

「都市構造可視化計画ウェブサイト」で見られる統計データ

- 人口(昼夜間別、65歳以上、将来予測など)
- 人口密度
- 地価
- 事業所数(面積規模別など)
- 就業者数(第1次、2次、3次産業別、男女別など)
- 小売販売額
- 耕作放棄地
- 公共交通利用圏

※経年変化が見られるものもある